



平成25年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ドトール・日レスホールディングス

コード番号 3087 URL <http://www.dnh.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星野 正則

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 木高 毅史

四半期報告書提出予定日 平成24年10月15日

配当支払開始予定日

TEL 03-5459-9178

平成24年11月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第2四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第2四半期	54,908	0.5	3,934	3.6	4,125	3.1	2,626	113.7
24年2月期第2四半期	54,656	2.8	3,798	△13.4	4,001	△13.2	1,229	△50.1

(注) 包括利益 25年2月期第2四半期 2,428百万円 (126.6%) 24年2月期第2四半期 1,071百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
25年2月期第2四半期	54.50	—
24年2月期第2四半期	25.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円		
25年2月期第2四半期	106,406	83,780	78.7	1,736.77		
24年2月期	102,845	81,939	79.6	1,698.71		

(参考) 自己資本 25年2月期第2四半期 83,697百万円 24年2月期 81,863百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
24年2月期	—	13.00	—	13.00	26.00
25年2月期	—	13.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年2月期の連結業績予想(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	110,602	2.7	7,712	8.7	8,171	9.3	4,080	62.4	84.66

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年2月期2Q	50,609,761 株	24年2月期	50,609,761 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

25年2月期2Q	2,418,405 株	24年2月期	2,418,306 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年2月期2Q	48,191,426 株	24年2月期2Q	49,098,419 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書（第2四半期連結累計期間）	6
四半期連結包括利益計算書（第2四半期連結累計期間）	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要やエコカー減税などの政策により4-6月の実質GDPが前期比0.6%のプラスになるなど、緩やかな回復基調にありました。しかしながら、欧州債務危機の長期化や円高の継続、また電力不足問題などもあり、先行きは不透明な状況となりました。

外食業界におきましても、消費者の生活防衛意識の高まりに加え、米国での干ばつによる穀物価格の高騰や国内米価が高値圏で推移したこと、また、業種を超えた競争などにより、厳しい経営環境となりました。

このような状況下のもとで、当社グループは、「外食業界における日本一のエクセレント・リーディングカンパニー」の地位確立を目指し、立地を厳選してグループ全体で30店舗（直営店舗17店舗、海外2店舗、加盟店舗11店舗）を新規に出店しました。また、顧客の嗜好に合わせて、「星乃珈琲店」のチェーン化を一層推し進めるなど、24店舗の業態変更を行いました。さらに、ブランド価値の向上策、業務の効率化、新規業態の立ち上げ、新メニュー開発など既存事業の強化を行いました。

海外展開においては、シンガポールに「洋麺屋五右衛門」を1店舗出店した他、「マリーナベイフィナンシャルセンター」に「ドトールコーヒーショップ」を初出店し、当第2四半期連結会計期間末時点の海外店舗数は、シンガポール16店舗、中国4店舗、台湾2店舗の計22店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高549億8百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益39億34百万円（前年同期比3.6%増）、経常利益41億25百万円（前年同期比3.1%増）、四半期純利益26億26百万円（前年同期比113.7%増）となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

(レストラン事業)

レストラン事業では、アジア各地のグルメを集めたアジア料理専門店の「アジアマルシェ」、正統派インド料理専門店の「タージマハール」、パンケーキ専門店の「ミーズパンケーキ」の新業態を開発するとともに、牛たん専門店の「仙台見」の多店舗化に努めました。また、大阪駅、東京スカイツリーに併設の商業施設であるソラマチ及び成田空港の好立地に「洋麺屋五右衛門」を出店しました。

海外展開については、シンガポールに「洋麺屋五右衛門」1店舗を出店しました。

以上の結果、レストラン事業における売上高は179億24百万円（前年同期比1.7%増）、セグメント利益は19億74百万円（前年同期比15.8%減）となりました。

(カフェ事業)

カフェ事業では、季節に合わせた魅力ある商品作りを継続するとともに、本年度より更に注力している「朝だけセット（モーニング）」、「昼のミラノサンド」、「ティータイムのケーキセット」といった時間帯別のセットメニューや新商品施策がお客様のご支持を頂くなど、既存事業の強化と美味しさの追求に努めた結果、既存店は前期比プラスで堅調に推移いたしました。また、デザイン性の高い店舗の新規出店や改装などを積極的に展開するなど、ブランド力の強化に努めました。

海外展開については、シンガポールにドトールコーヒーショップを初出店し、アセアン市場へのカフェ事業の展開を開始いたしました。

以上の結果、カフェ事業における売上高は147億74百万円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益は11億41百万円（前年同期比12.5%減）となりました。

(卸売事業)

一般卸売事業では、洋菓子部門において、大丸東京店に新しいコンセプトのスイーツショップ「Qi_ta_wa（きとわ）」をオープンし、新商品「お濃茶ラング・ドジャ“花のごとく”」の販売を開始するなど、消費者向け商品の開発や販路の拡大に努め、着実に売上を伸ばすことができました。一方、コーヒー部門においては、ドリップコーヒーやコーヒー原料の販路拡大、スーパーなど量販店向け商品の開発や販売の拡大、チルド飲料など定番商品と新商品の継続的な投入に注力し、業容の拡大に努めましたが、昨年の需要増の反動から売上高は減少する結果となりました。

以上の結果、卸売事業における売上高は222億9百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は24億42百万円（前年同期比3.8%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ35億61百万円増加の1,064億6百万円となりました。負債は、売上増加に伴う仕入債務の増加等により前連結会計年度末と比べ17億20百万円増加の226億26百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により837億80百万円となり前連結会計年度末と比べ18億40百万円の増加となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比べ20億7百万円増加し、229億5百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が43億61百万円となったことや、季節的要因による売上債権及び仕入債務の増加等により、54億59百万円の収入（前年同期は32億36百万円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、新規出店や店舗改装等の有形固定資産の取得による支出14億99百万円等により、30億87百万円の支出（前年同期は10億9百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額6億25百万円やリース債務の支払等により3億9百万円の支出（前年同期は4億17百万円の支出）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、雇用・所得環境の悪化に伴い、消費に対する節約志向は依然として続いており、さらにデフレ傾向が継続するなかで、企業間競争は益々激しさを増し、当社グループにとっても大変厳しい経営環境が続くものと予想されます。

今後においては、天候不順や不透明感の漂う消費低迷等のリスクを考慮しつつも、通期の連結業績見通しにつきましては、平成24年4月13日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,398	22,905
受取手形及び売掛金	5,610	6,730
有価証券	1,500	1,500
商品及び製品	1,151	1,309
仕掛品	106	110
原材料及び貯蔵品	1,157	1,051
繰延税金資産	803	881
その他	2,718	3,325
貸倒引当金	△67	△71
流動資産合計	32,378	37,742
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,865	17,536
機械装置及び運搬具（純額）	833	756
土地	13,248	13,248
リース資産（純額）	1,990	2,006
その他（純額）	1,083	1,115
有形固定資産合計	35,021	34,663
無形固定資産		
投資その他の資産	1,643	1,488
投資有価証券	8,878	7,872
繰延税金資産	2,149	2,194
敷金及び保証金	21,581	21,257
その他	1,192	1,188
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	33,801	32,511
固定資産合計	70,466	68,663
資産合計	102,845	106,406

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,536	6,386
短期借入金	2,520	3,020
未払法人税等	1,347	1,863
賞与引当金	955	1,009
役員賞与引当金	43	27
株主優待引当金	70	—
その他	4,808	4,656
流動負債合計	15,281	16,962
固定負債		
リース債務	745	753
退職給付引当金	1,710	1,756
資産除去債務	737	741
その他	2,430	2,412
固定負債合計	5,624	5,663
負債合計	20,905	22,626
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	25,858	25,858
利益剰余金	58,471	60,492
自己株式	△2,784	△2,784
株主資本合計	82,544	84,565
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△550	△743
繰延ヘッジ損益	△126	△127
為替換算調整勘定	△4	2
その他の包括利益累計額合計	△681	△868
少数株主持分	76	83
純資産合計	81,939	83,780
負債純資産合計	102,845	106,406

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
売上高	54,656	54,908
売上原価	22,785	22,429
売上総利益	31,870	32,479
販売費及び一般管理費	28,071	28,545
営業利益	3,798	3,934
営業外収益		
受取利息	168	173
受取配当金	32	34
不動産賃貸料	28	23
その他	41	56
営業外収益合計	270	287
営業外費用		
支払利息	18	15
為替差損	15	41
不動産賃貸費用	19	15
持分法による投資損失	11	18
その他	3	5
営業外費用合計	67	96
経常利益	4,001	4,125
特別利益		
投資有価証券売却益	—	697
受取補償金	61	—
その他	0	17
特別利益合計	62	714
特別損失		
固定資産除却損	95	32
投資有価証券評価損	459	16
店舗閉鎖損失	64	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	420	—
減損損失	—	428
災害による損失	103	—
特別損失合計	1,144	477
税金等調整前四半期純利益	2,919	4,361
法人税等	1,690	1,748
少数株主損益調整前四半期純利益	1,229	2,613
少数株主利益又は少数株主損失(△)	0	△12
四半期純利益	1,229	2,626

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,229	2,613
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△53	△193
繰延ヘッジ損益	△110	△0
為替換算調整勘定	5	8
持分法適用会社に対する持分相当額	—	0
その他の包括利益合計	△157	△185
四半期包括利益	1,071	2,428
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,070	2,439
少数株主に係る四半期包括利益	1	△11

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,919	4,361
減価償却費	1,868	1,729
のれん償却額	44	55
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	420	—
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	48	46
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△14	3
賞与引当金の増減額 (△は減少)	71	53
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△17	△15
固定資産除却損	95	32
店舗閉鎖損失	64	—
減損損失	—	428
投資有価証券評価損益 (△は益)	459	16
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△697
持分法による投資損益 (△は益)	11	18
受取利息及び受取配当金	△201	△207
支払利息	18	15
為替差損益 (△は益)	15	54
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,565	△1,119
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△759	△55
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,668	870
その他	△393	318
小計	4,755	5,910
利息及び配当金の受取額	185	178
利息の支払額	△18	△15
法人税等の支払額	△1,685	△613
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,236	5,459
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	10	—
有価証券の取得による支出	—	△1,500
投資有価証券の取得による支出	—	△101
有形固定資産の取得による支出	△1,043	△1,499
有形固定資産の売却による収入	0	34
無形固定資産の取得による支出	△75	△40
敷金及び保証金の差入による支出	△80	△216
敷金及び保証金の回収による収入	399	430
関係会社株式の取得による支出	△150	—
その他	△70	△193
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,009	△3,087

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	360	500
リース債務の返済による支出	△164	△203
少数株主からの払込みによる収入	24	19
配当金の支払額	△637	△625
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△417	△309
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△54
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,798	2,007
現金及び現金同等物の期首残高	19,011	20,898
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,810	22,905

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社を持株会社とする当社グループは、2つの中核事業会社を基礎としたセグメントから構成されており、「レストラン事業」、「カフェ事業」及び「卸売事業」を主な事業セグメントとしております。

「レストラン事業」は、主に直営店におけるレストランチェーン及びベーカリーチェーンを経営しており、食材の仕入れ、製造及び販売までを事業活動として展開しております。

「カフェ事業」は、直営店におけるコーヒーチェーンを経営しており、コーヒー豆の仕入れ、焙煎加工及び店舗における販売までを事業活動として展開しております。

「卸売事業」は、主にフランチャイズシステムによるコーヒーチェーンを経営しており、コーヒー豆の仕入れ、焙煎加工の上、フランチャイズ加盟店への卸売りやロイヤリティ等の収入、また、コンビニエンスストア等へのコーヒー製品の販売を事業活動として展開しております。

各報告セグメントを経営する主な事業会社は以下のとおりです。

レストラン事業	日本レストランシステム(株)、(株)サンメリー、D&Nカフェレストラン(株)他
カフェ事業	(株)ドトールコーヒー他
卸売事業	(株)ドトールコーヒー、D&Nコンフェクショナリー(株)他

II 前第2四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レストラン 事業	カフェ事業	卸売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,619	14,584	22,452	54,656	—	54,656
セグメント間の内部売上高 又は振替高	90	—	692	782	△782	—
計	17,710	14,584	23,144	55,438	△782	54,656
セグメント利益 (又は△セグメント損失)	2,345	1,304	2,538	6,188	△2,389	3,798

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△2,389百万円には、主として親会社及び連結子会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用1,871百万円及びセグメント間取引消去473百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅲ 当第2四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レストラン 事業	カフェ事業	卸売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,924	14,774	22,209	54,908	—	54,908
セグメント間の内部売上高 又は振替高	56	—	756	812	△812	—
計	17,980	14,774	22,965	55,721	△812	54,908
セグメント利益 (又は△セグメント損失)	1,974	1,141	2,442	5,558	△1,624	3,934

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,624百万円には、主として親会社及び連結子会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用1,817百万円及びセグメント間取引消去241百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」及び「カフェ事業」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「レストラン事業」で278百万円、「カフェ事業」で150百万円であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。